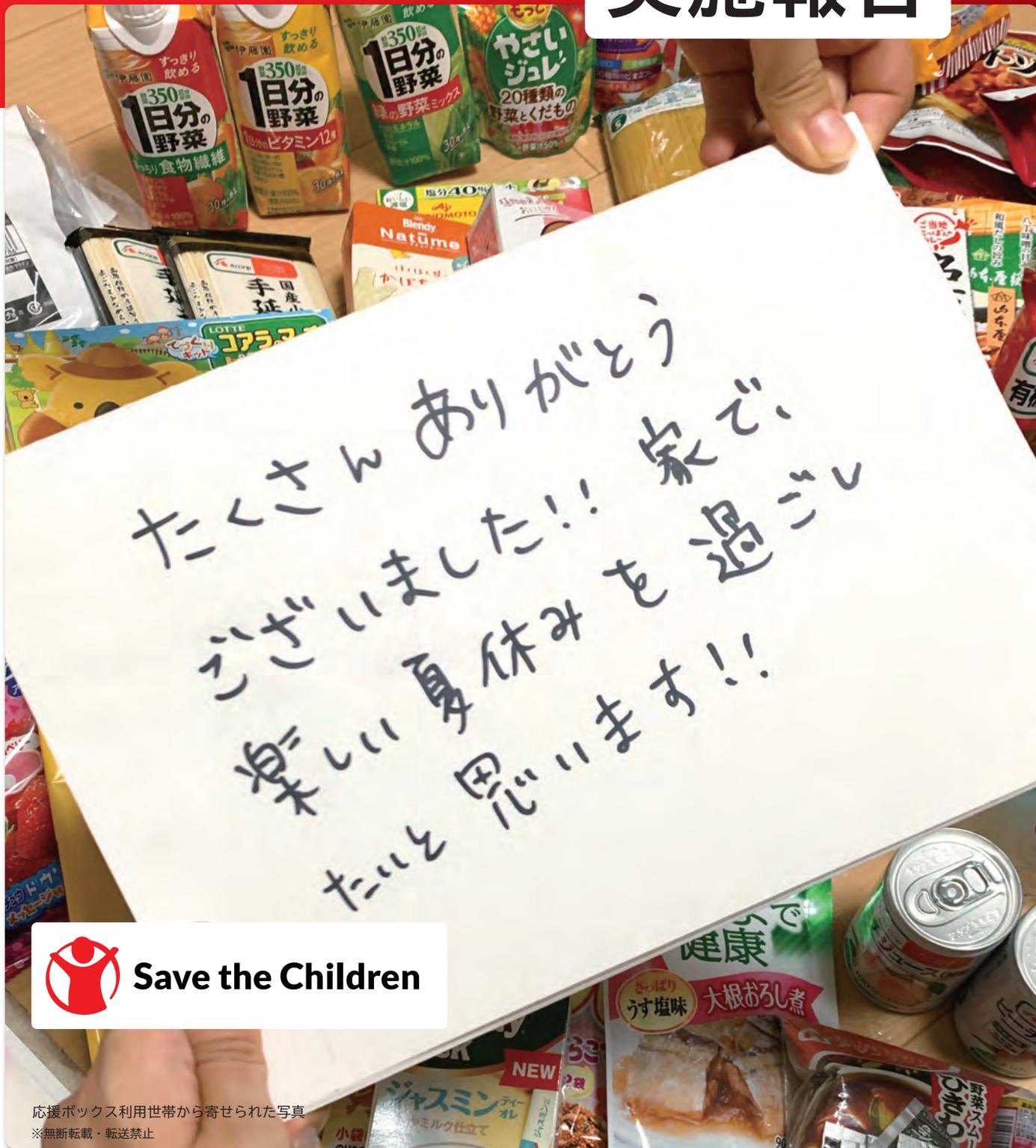


2022年

子どもたちと家族の食の状況を改善

「子どもの食 応援ボックス」

実施報告



Save the Children

応援ボックス利用世帯から寄せられた写真
※無断転載・転送禁止

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

皆さまのご支援による「子どもの食 応援ボックス」が 経済的に厳しい状況にある子どもや保護者を支えました。

セーブ・ザ・チルドレンは、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大を受け、緊急支援として、食料品などを詰めた「ひとり親家庭応援ボックス」を首都圏の世帯に提供しました。その後はふたり親世帯も含めた「子どもの食 応援ボックス」を開始し、2021年末までにのべ8,881世帯の経済的に困難な状況にある子どもたちに食料品を届けました。2022年からは、新型コロナウイルス感染症の長期化や、感染者数が減少している自治体であっても子育て世帯がより困難な状況におかれている可能性があることをふまえ、子どもの貧困問題解決事業の一環として対象を全国に拡大し実施しています。

2022年も、皆さまからのあたたかいご支援が、子どもたちと家族の食の状況を改善し、子どもたちの生きる権利・育つ権利を保障するために大きな力となりました。皆さま一人ひとりのご協力に心からの感謝をお伝えするとともに、支援活動の成果をご報告します。

2022年
のべ
8,206世帯
に「応援ボックス」を
届けました。

子ども のべ16,726人
大人 のべ10,879人
(19歳以上)



対象世帯・配布数量を拡大して、 物価上昇の影響を受ける子どもたちとその家族に届けました。

2020年
2,501
世帯に配布

2021年
6,380
世帯に配布

2022年
8,206
世帯に配布

2,501世帯
*ひとり親家庭
応援ボックス
として

冬休み
3,198世帯
発送：12月下旬
対象地域：
33都道府県*

夏休み
3,182世帯
発送：7月中旬
対象地域：
21都道府県*

冬休み
5,006世帯
発送：12月上旬
対象地域：
47都道府県

夏休み
3,200世帯
発送：7月上旬
対象地域：
47都道府県

経済的に困難な状況にある子育て世帯を対象に、学校給食のない夏休み・冬休みの長期休暇期間にあわせて「子どもの食 応援ボックス」を2回実施しました。夏休みには3,200世帯へ提供しましたが、実際の申し込みは、定員の2倍近い5,644世帯からありました。そのため冬休みは対象世帯数を大幅に拡大し、5,006世帯に配布しました。



*緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令された都道府県に申込時に居住が申込条件

配布内容

- 食料品セット（米などの主食、副菜となるレトルト食品、飲料、お菓子など）
- 日用品（夏のみ：ボディソープ、洗剤など）、文房具（ペン、消しゴムなど）
- 情報提供（教育支援制度の案内など）

申込条件

- 日本国内に居住する
- 0歳～18歳までの子どもを扶養する
- 所得割非課税世帯またはそれに準ずる

受け取られた方々から「ありがとう」が届いています。

寒い時期も温かい気持ちになりました。頑張れました。

我が家にサンタクロースが来た！

物価高騰でなかなか厳しい状況の中、本当に助かりました。子どもにお腹いっぱい食べさせてあげられます。

普段の長期休暇中は一食しか食べられない我が子にとっては涙が出るほど嬉しい物でした。

心まで潤いました。

この夏はこれで生き延びられる…

生きていく上で必要なものばかりで、おかげで夏休み越せそうです。

我が家に笑顔をありがとうございました！



こんなにたくさんいただけるとは思ってなくて、子どもたちも何が届いたのかとわくわくしながら開封させていただきました。子どもたちが大好きなお菓子、たくさんの食料品、日用品、ほんとうに助かりました。ママ、写真撮って！と言われ、綺麗に楽しそうに子どもたちが並べてる姿を見て泣きそうになりました。笑心からの感謝の気持ちでいっぱいです。



子どもと一緒にひとつずつ、歓声をあげながら、「宝箱だね！」といいながら出しました。使用やいただくのはこれからですが、親子二人で開けた時間、どうやって記念写真撮ろうか、もう並びきれないよ！と笑いながら並べた時間も宝物になりました。

個人・企業・団体との協働

「子どもの食 応援ボックス」は、多くの個人の皆さまからのご寄付と、企業・団体による商品・資金・人材などのリソースの提供により、子どもたちとその家族にお届けすることができています。セーブ・ザ・チルドレンは、企業・団体とのパートナーシップを通じて、相互理解を深め、お互いの強みを生かした連携、協力を行うことで、より持続的に社会課題の解決に取り組むことができると考えています。

参加企業からの声



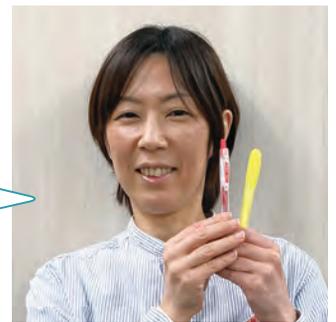
森永製菓株式会社

コーポレートコミュニケーション部社会貢献グループ 近田亜由美 様

子どもたちが安心して食を楽しめるように協力したいという想いで、夏と冬に商品提供という形で寄付をいたしました。また、社会貢献の取り組みとして従業員に呼びかけをし、梱包作業ボランティアにも参加させていただきました。一つ一つ商品を梱包する中で、たくさんの会社や人が力を合わせれば大きな力になることを実感しました。子どもの貧困問題の解決にはまだ時間がかかりますが、これからも人々が笑顔になれる社会づくりに貢献していきます。

株式会社パイロットコーポレーション 広報部 竹尾麻里子 様

当社はセーブ・ザ・チルドレンのロゴやキャラクター入り筆記具を販売し、売り上げの一部を支援活動へ寄付させていただき取り組みを通して長年ご一緒させていただいています。そのご縁で、「応援ボックス」にシャープペンシルやカラーペンといった筆記具などを提供させていただくようになりました。ご家庭からの感謝の声や、筆記具を使ってお絵描きをしているお子さんの姿の写真を見る度に、改めて私たち企業の存在意義に気づかせていただき、毎回身の引き締まる思いです。教育は貧困の連鎖を断ち切る有効な手段のひとつでもあります。子どもたちが将来の可能性を広げることができるよう、今後も応援できればと思っています。



物品提供でのサポート

セーブ・ザ・チルドレンのパートナー企業、およびこの活動の趣旨に賛同したザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム日本サステナビリティ・ローカル・グループ、WRI10×20×30食品廃棄削減イニシアティブ日本プロジェクトの参加企業のほか有志より、食品や日用品・文房具などの提供をいただいて実施しました。夏休みは32社より約18万個、冬休みには28社より約21万個の物品提供でご協力いただきました。



夏 冬
32社 28社

に物品を
ご提供いただきました。

ボランティア参加でのサポート

従業員ボランティアプログラムは、「子どもの食 応援ボックス」に賛同・支援いただいた企業の従業員の皆さまの活動に対する理解と関与を深めていただくことを目的として、2022年7月と11月、12月に実施しました。応援ボックスに同梱するパンフレットや文房具などのアッセンブリ作業、中箱の作成、食料品の大型箱への梱包や段ボールの組み立て、整理など、さまざまな作業を実施いただきました。ボランティア活動を通して、企業・団体とのさらなる対話や相互理解の促進、信頼関係構築を進め、ともに課題を解決していくための連携を進めていきます。



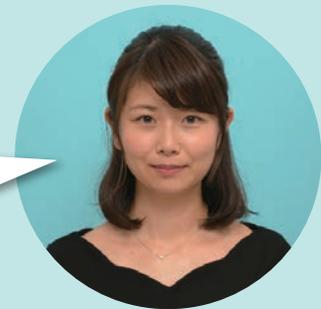
ボランティア参加者からの声

従業員ボランティア実施後（冬休み）のアンケートでは、参加者の96%以上が満足したと回答しました。

実際のボランティア現場を経験でき、活動の意義や重要性を認識できました。

実際に提供させていただいた商品を自分の手で詰め、それが皆さんのもとに届くのだということを、体感できるととても良い機会でした。

身近にある社会問題をより自分ごとに行える機会でした。また企業人でありそのような現場から少し遠い私たちにとって知る、経験できる機会となりました。プラスの副次的効果として、参加した社員同士の社内リレーション構築が生まれ、ご一緒した企業様と休憩時間に交流できる機会があり、社外の方で、かつ、自分と同じ関心がある方たちと交流し情報交換ができました。また、社会貢献活動をただのボランティアとして受け取るのではなく組織のチームビルディングなど、ほかの活動にも有効なのではないかという議論が参加者の中でできました。



富士通株式会社
総務本部
コミュニティ推進室
井上 悠起 様



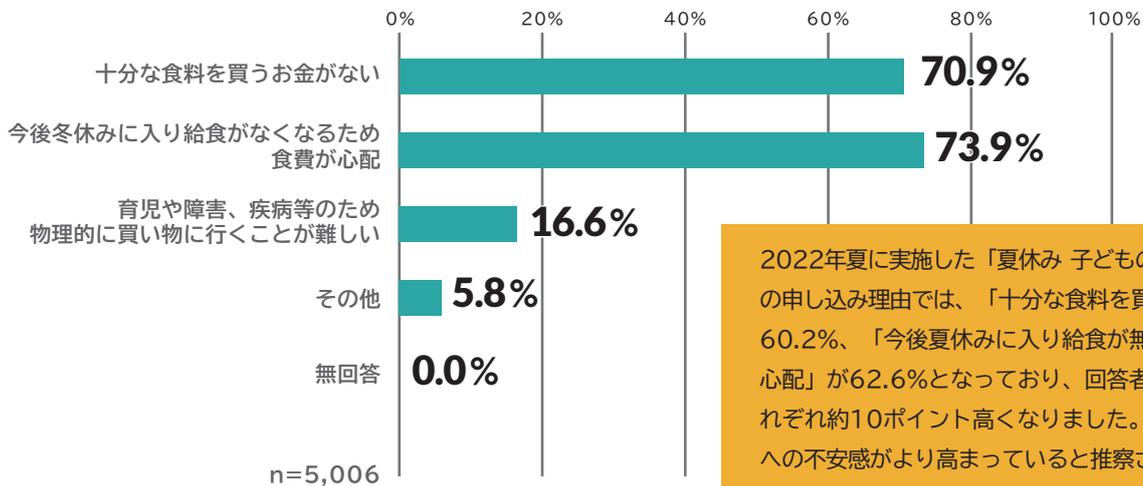
その他、たくさんの個人の皆さまにも支えられ、活動を実施することができました。

「子どもの食 応援ボックス」利用世帯の生活状況・社会に求めること

2022年「冬休み 子どもの食 応援ボックス」利用世帯へのアンケート調査結果より

- 物価上昇について、約**98%**の世帯が生活に欠かせない食費や日用品、光熱費などに影響を感じていると回答
- 現在困っていること、心配なこととして、**80%以上**の世帯が「物価の上昇により生活が苦しい」と回答

申込時の質問：本ボックスの申し込み理由を教えてください。（任意、複数回答）



2022年夏に実施した「夏休み 子どもの食応援ボックス」の申し込み理由では、「十分な食料を買うお金がない」が60.2%、「今後夏休みに入り給食が無くなるため食費が心配」が62.6%となっており、回答者は異なるものそれぞれ約10ポイント高くなりました。物価高による影響への不安感がより高まっていると推察されます。

“ 収入が低い元々貯蓄できていなかったが、物価高でますます困難になっている。子どもは小学校高学年だが、中学生に進学すると制服代などまとまった金銭が必要となるはずなので、捻出できるか今から不安。（40代・女性） ”

“ 子ども3人のうちの2人が中学・高校への進学を控えています。進学費用はどうかして工面しますが、かなり貯金を切り崩さないとやりくりできそうにありません。不安を子どもたちの前で見せてしまうと恐縮してしまうので何とかしようとは思っていますが、入学準備に数十万円必要になるのは負担が大きいです。（40代・女性） ”

2022年「夏休み 子どもの食 応援ボックス」利用世帯へのインタビューより

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって3年ぐらい、ずっと低所得な状況が続いていて、その状況は今も変わっていません。それなのに、支援を打ち切られたら本当にキツイです。キツイって声をあげられない他の家庭もたくさんあると思うので、今後も公的なものも民間のものも、支援や活動は継続してほしいです。（女性）

セーブ・ザ・チルドレンは、こうした子育て世帯の声を受け、長期休暇中の「子どもの食 応援ボックス」の継続に加え、新生児向け育児用品を提供する「ハロー！ベビーボックス」や、中学・高校入学時の費用の一部を負担する「子ども給付金～新入学サポート～」など、子どもの「今」を支えるための支援プログラムを実施しています(2023年3月現在)。

また、アンケートやインタビューの結果を報告書にまとめ、経済的に困難な状況にある子育て世帯への手厚い支援を行うよう国や自治体へ働きかけるとともに、

子どもの貧困の抜本的な解決につながるよう、諸制度の改善や社会保障の拡充を、国や関係省庁へ求めています。

利用者アンケート結果はこちら

夏の結果



冬の結果



会計報告

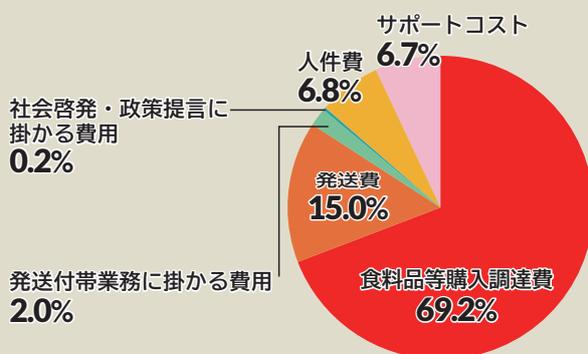
個人や法人の皆さまからのご寄付により、「子どもの食 応援ボックス」では、各世帯への食料品などの提供、利用世帯の生活状況の調査・分析・発信、政策提言活動などの支援活動を行うことができました。

事業支出合計 **129,446,358円**

(2022年6月～12月末)

内訳	金額
食料品等購入調達費	¥89,638,182
発送費	¥19,382,056
発送付帯業務に掛かる費用	¥2,645,006
社会啓発・政策提言に掛かる費用	¥261,400
人件費	¥8,828,000
サポートコスト	¥8,691,714
合計	¥129,446,358

支出の割合



※2023年3月時点

ご寄付のお願い

経済的に厳しい状況にある子どもたちやその家族がじゅうぶんな量の食事をとることができ、子どもたちの育ちが保障され、安心して長期休暇を迎えられるよう、個人・法人の皆さまのご支援をお願いいたします。

企業の皆さま

物品の調達、発送作業、配送などのための資金が必要なため、皆さまのご支援を必要としています。

企業としてのご寄付、自社商品（食料品）提供、または従業員の皆さまへのご寄付の呼びかけをご検討いただける場合は、下記のメールアドレスにご一報ください。

E-mail : japan.corporatepartner@savethechildren.org

個人の皆さま

毎月寄付

月々**1,500円**からの継続的なご寄付

下記のフリーダイヤルまたはウェブサイトからお申し込みください



今回寄付

いつでも自由な金額でのご寄付

郵便振込口座：**00900-1-120760**

加入者名：**セーブ・ザ・チルドレン 子ども基金**

※ 窓口でお手続きいただくと払込手数料が免除になります



■セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、確定申告をすることで税の控除を受けることができます。



0120-317-502

www.savechildren.or.jp

セーブザチルドレン

検索



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
www.savechildren.or.jp

2023年3月発行